

参加者、
小海、北島、島崎、田中、
中島、安田、遊佐、吉野、
ゲスト、
山下、大竹、斎川、

BMW RS Club

かわらばん

3/2

March 2, '03

ゆったりとした気分で送った
春まだ浅い伊豆根府川での休日
かわらばんー中島邦雄・挿絵-小倉玲子

今年は元旦から小雪がちらつき、何度か雪の降るいつにない寒い冬の日々でした。北陸の海では降りしきる雪の中で、逆巻く荒波が岩に碎け散り、鉛色の海に白く波の花を舞い上げていました。その厳寒の中で我々が和倉温泉の「加賀屋」へ行く時に走った、あの富山湾に面した水見の漁港には、雪起こしの雷鳴が轟くという中で、今年も定置網からは10キロを越すという見事なブリが次々に上がっていました。しかしそんな寒さの日々の中でもふと我々の周囲を見回すと、いつの間にか早春を彩る黄色の花々、サンシュやマンサクそしてレンギョウやロウバイが咲き始め、あたかもその周りを明るく照らすかのようでした。

梅やボケ、川柳がほころび、華やかなピンクの桃や花かんざしをかざすかのようなアンズが、その開花を待ちわびています。春先の海辺からは「着物の似合う瘦せぎすの下町娘」と例えられる細身のサヨリが、早春の陽光を浴びて水面を輝きながら走り、春告魚のメバルの舟釣り開始という知らせも届きました。暫くガレージで眠っていた愛車の出番を目前に控え、暇をみては磨き始めると、メジロや四十雀（シジュウカラ）のさえずりも一段と大きく響きわたり、日脚も日を追って伸びてきました。

そして五節句の一つ「桃の節句」を翌日に控えた三月二日、いよいよ新役員による今年の走り始めの日を迎えました。毎年この日を迎える度に〔奥の細道〕の長旅に出る芭蕉が、「道祖神の招きにあい、股引き（モモヒキ）のやぶれをつづり、笠の緒つけ替えて、三里に灸する…」と書いたそんな心境にさせられ、もう既に何度かやっている筈なのに、又々バイクの点検をしたくなつたのは私だけでしょうか。

暑いような日が有ったかと思うと翌日はボタン雪がちらつき、三寒四温と呼ぶには余りに不順な日々が続きました。当日も前夜来の雨が明け方まで残りましたが、予報は昼前より暖かくなりピーカンとのご託宣。過去のツーリングの際にも何度もウソをつかれ、予報官のヤロー共の舌を抜きたいと思ったことが何度も有りました。しかし何時もは当てにならない天気予報も、こうなると信じたくなるから現金なものです。朝方は雲が広がり気温も低めで、しっかりと防寒対策をしてバイクを出しました。出しなに甲高いメジロの声を聞きその声の方を見やると、このところ雨が多かったせいか、近所の八重咲きのピンクの梅が、既に七、八分咲きとなり其の中にひとつがいのメジロが居ました。心なしか東の空が明るくなり、どうやら予報が当たりそうです。

今日の第一集合地は九時に第三京浜保土ヶ谷SA、そして第二集合地は十時に西湘バイパス国府津SAでした。私と安田さんは首都高速から東名に入り、国府津SAへと向かいました。曇っていた空は東名厚木へ来ると急に日が差し始め、雨上がりの澄んだ空氣の中に、周囲の山々を従えるかのように、雪化粧の富士山が出迎えてくれました。秦野中井から大磯を抜け、二宮から西湘バイパスへ向かうと、抜けるような晴天の中に真っ青な海が目に飛び込んできました。此処へ来る度にその風景の見事さに感激し、其の時々の海の色から、四季折々の季節の移ろいを如実に感じさせられます。この日は風が強いので何時もは穏やかな浜辺に、激しく大波が打ちつけていましたが、それでも冬の間の芽えざえとした海の色が、柔らかな春の色に変わりかけていました。定刻を十分ばかり過ぎて二台のゲストを交え、七台のBMWが滑り込んで来ました。暫く休んでいた吉野さんが、再び新車かと思えるように76年型をレストアしての参加です。慣らし運転中だそうですが、本当に乗るのが惜しい程に奇麗でした。

天気は益々良くなり気温もグンと上がって、沢山のバイクが次々に集まって来ました。今日の我々の目的地はすぐ目の先なのでユックリと休み、九台が揃って根府川へと向かいました。海岸線では白波の立つ中で投げ釣りを楽しむ人の姿が見られました。早川から国道を海に沿って走ると、強風にあおられた波しぶきが吹きつけ、ヘルメットのシールドが曇ってしまう程でした。途中で右折して旧道に入ると、処々で梅の古木が花を受け、左手には海上三里と言われる初島が、クッキリとその姿を現しています。両側に木が植えられ石畳の洒落た坂道を上って行くと、高級ホテルのような見事な建物に着きました。

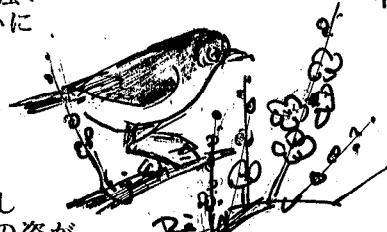
今日はタオル付き¥1,000円で小田原市とかかわりあいの有る、何とかセンターで風呂に入ると思っていたので、場所が違うのではないかと思いましたが、其処がお日当の「スパウザ小田原」という、汚い恰好で入るには恐れ多い感じの建物でした。聞くところによると、ふるさと創生資金で建設して、お決まりの赤字となり小田原市とどうにかしているとか。此処にもバブルの跡が有りました。サウナもあり大きなガラス張りの風呂からは、目の前に広々とした海が見渡せ何とも贅沢な気分です。海が近いからか風呂のお湯が幾らか塩気を含んでいましたが、熱海からこの辺りにかけては、概ねこんな感じの湯質だそうです。風呂から上がると小海君と山下君のご両人が、我々より一足遅れて到着していました。海に面した二つのレストランは時分時で予約待ち、四階の眺望絶佳というレストランも一杯。結局二階に有る若いお姉様がサービスする洒落た処で、カレーやラーメン等の軽い昼飯となりました。今迄は昼には魚を食べビールを飲むのが定番でしたが、交通規制が去年から厳しくなり、当クラブも運転中の飲酒は厳禁ですので、こういう場所が適當だったのかも知れません。煮卵と自家製チャーシューの付いた旨いラーメンでしたが、長年ラーメンを食べてきて、初めて税金とサービス料を取られました。赤字経営のわりには随分と多くの客が出入りし、外に出ると大きな駐車場も満杯の盛況振りでした。プール、テニス・コート、ゴルフ練習場等が揃っているそうです。目の前には伊豆半島がなだらかな曲線を描いて広がり、ミカン畑が彩りを添えていました。

時間的には未だ早いのですが、この日が今年の走り始めとなり、混み合わない内に帰ろうという事になりました。坂を下り海岸線に出ると、今朝方の強い風はだいぶ納まり、打ちつける波も穏やかになっていました。時間が早い割には帰り車が多く、本道へ入る道はかなりの渋滞中でしたが、そこはバイクの事、各々が適当に走りいつの間にか早川の辺りに來ました。時には、メンバーが揃っていました。しかし今日の幹事の遊佐ちゃんとゲストの方々の姿が見えませんでしたが、もの足りずに何処かへ回ったろうとの事で、我々は小田原厚木道路に入りました。

此処で解散となり各自が思いのままに帰途に就きました。長期予報では絶望的な天気でしたから、本当に汗ばむような今日の天気は儲け物と言った感じの一日でした。こんなことが有るので「決して當てにしまい」と思いながら、ついともやに引かれて天気予報を信じては頭に来るのが毎度のことです。飛騨高山までの700キロを、日帰りで昼飯を食べに行く当クラブとしては、今回は異例の短いツーリングでしたが、何か心休まるそんな一日でした。幹事役の遊佐ちゃん、ご苦労様でした。ゲストで参加くださった斎川さんと大竹さん。どうぞこれに懲りずにまた一緒に来てください。ご入会下さると我々としても大歓迎なのですが。

- [新会長よりの要望事項]
1. 旧役員より我々がクラブの全ての事務事項を引き継ぎました。しかし前期よりの繰越金は¥6,992円のみで、新年会の通知を出した後、残りは僅になりました。既に会費の支払期限は過ぎていますが、過去に「うっかり支払いが遅れて名簿から消された」という人が去年も何人か居ました。そこで旧会員にも再び声をかけて、一人でも会員を増やそうとしています。現に二人の方が既に戻りましたが、他に旧会員以外にも入会希望者の方が居られましたら声をかけて下さい。そんな事情でこの一年間は緊縮財政となります。来年以降に備え皆様のご協力をお願い致します。
 2. 交通法規の罰則が厳しくなり、例え自分が飲んでいなくても、一緒の人の飲酒を黙認すると帮助罪になるとか。従って今年よりツーリング時の飲酒はご法度と致します。(走った後の特に夏場の昼飯時の一杯(?)のビールは、五臓六腑にしみわたりましたが…中島)

このところ会の参加者がすっかり減り、新役員の方々が「どうにか元の活気ある会に戻したい」とその一助になればと思い、以前に六年間もご愛読頂きました「かわらばん」の拙文を、再度書くことになりました。挿絵の小倉玲子さんにもご協力を願い致しました。私も極力参加するよう心掛け、二人で頑張りますのでよろしくお願い致します。ご希望事項がございましたら、なんなりとその旨をお申し出下さい。(中島、小倉)



この道は未だ空いていて覆面パトカーを気にしながら飛ばします。此処の制限速度は70キロで、以前に90キロで捕まり、100キロ未満なのに何が違反だ、とボリ公に文句を言った事が有りました。ゆっくりか飛ばすしかない道ですから、当然のようにぶっ飛ばし、朝方にはキャブの調整中でスピードの出なかった安田さんも、休憩中にアジャストを終え、皆が厚木に集合したのに、彼だけが一人で「東名海老名」までブッ飛んで行ってしまいました。海老名に着くと最近になって二本サス車を購入した、山下君のキャブが悪いそうで、早速に安田さんが道具を並べて、その調整をしました。プロが一緒に本当に便利なクラブですね。